

令和 7 年度(2025 年度)
地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習
(多職種参加型症例検討演習 CS 演習)

がん患者が抱える問題点を異なる職種の立場から検討することで、多職種間での情報共有の重要性を理解し、問題点の整理ならびに解決方法を習得する。

オンコロジーチームで必要とされている職種横断的ケーススタディのあり方を習得する。

<到達目標>

- 多職種医療スタッフに理解できるような症例提示や問題提起・討論ができる。
- 職種横断的症例検討における腫瘍内科医・血液腫瘍内科医、小児科医、外科医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、リハビリテーションスタッフならびにがん医療に関わる様々な職種の役割と責任を理解し、共同して問題の解決に取り組む事ができる。
- 機能的な職種横断的ケーススタディを実現するための必要なスキルを抽出する。
- がん患者の診断や治療の意思決定の支援について、多職種と共同して問題解決に取り組むことができる。

<実施方法>

- CS 演習（対面にて実施）：

実際治療を行った悪性腫瘍患者の症例について多職種によるチームで職種横断的な症例検討を行う。症例提示、病態・治療方針・問題点の整理、対応策の提言、自由討論、総合討論
・共通のがん患者に対し、それぞれの立場からの診療方針を計画し、検討を重ねていく
・提示された症例に対し、病態、治療方針、問題点の整理を行う。それぞれの立場から積極的に意見を出し合い、チームとしての関わりを検討し、適切と思われる解決方法を見出す。

<事前/事後学習>

- 事前学習：症例サマリーを CS 演習当日までに各自予習。
症例の経過から、「多職種で議論すべきテーマ」を適切に抽出し、時間内に方向性を見出すことがポイントである
- 事後学習：レポート提出

<実習日>

演習実施日：2025 年 7 月 26 日(土) 9:30～15:00

<場 所>

グランフロント大阪北館タワーB10階

ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーB RoomB05

<実施報告>

内 容	日 時
CS演習(対面形式)	2025年7月26日(土)

参 加 者	人 数
がんプロ院 生	17 人
教 員	9 人
合 計	26 人

がんプロ院 生	人 数
医 師	6 人
看 護 師	2 人
薬 剤 師	3 人
理 学 療 法 士	2 人
臨 床 心 理 士 公 認 心 理 師	1 人
肺 培 養 士 (遺伝カウンセラー)	1 人
学 生 (遺伝カウンセラー)	2 人
合 計	17 人

＜受講生の声＞

■ 医師

一番の収穫は、他職種が患者の生活をどんな視点で捉え、関わり方や問題の解決策をどういったプロセスで考えているか、という各職業の考え方を知ることであったと思う。

患者の問題点や自分では得られない視点や理解をまとめて患者の今後に繋げることを目指すのだということ、そのためにはまだ非常に経験が浅いのだと実感した。

■ 医師

「他職種の可動域を知る」ための継続的な学習、認知機能低下患者の意思決定支援における倫理的判断、効率的な多職種連携を実現するための具体的方法論について、更なる改善が必要である。デバイス活用方法、簡潔な情報提示技術、効果的な事前準備方法など、限られた時間内で最大の成果を得るためのスキル向上に取り組みたい。

■ 看護師

本演習を通して、OCNS としてカンファレンスを円滑に進行するためには、議題の焦点化、時間配分、参加者の意見の方向づけなど、複合的なスキルが求められることを学んだ。また、患者の特性に応じた意思決定支援の在り方について、思い込みを排し、柔軟な視点で支援方法を検討する重要性を再確認した。この学びを、今後の臨床および多職種協働の場に活かしていきたい。

■ 看護師

臨床現場において看護師は多職種と協働するための調整役として機能し、方略を継続的に実施する担い手にもなる。今回の学びを基盤に、自己の課題である調整役として多職種間の検討を円滑に進め、情報を効果的に共有できるコミュニケーション能力の研鑽に努めるとともに、地域や院内における情報提供システムの運用の充実と周知に取り組むたいと考える。

■ 理学療法士

今回、多職種参加型症例検討演習に参加し、カンファレンスに臨むための準備、進行役の重要性、意思決定支援における情報収集と共有、そして多職種間の相互理解の重要性について学ぶことが出来ました。

■ 遺伝カウンセラー

他の参加者の方との知識や経験の差からかなり難しい実習でしたが、他の職種の方が普段どの場面でもんなふうに患者さんと関わるのかなどを知ることができ、大変勉強になりました。遺伝カウンセラーという職業にとってはとくに多職種連携が大事になってくると思うので今回の CS 演習で学んだことを活かしていきたいと思います。

■ 遺伝カウンセラー

私はまだ遺伝カウンセラーとして臨床経験はなく陪席実習もまだ行っていない状況で参加し、大変難しく感じていましたが、「遺伝カウンセラーとしてどのように関わるかを考えることが大切」とアドバイスをいただき、様々なアプローチを提案できる多職種連携カンファレンスの重要性を認識しました。今回の演習で学んだ多職種連携による情報共有の重要性と意思決定支援の在り方について、今後の臨床実践に活かし、患者様とそのご家族の支援に役立てていきたいと強く感じました。

■ 薬剤師/治験コーディネーター

本研修を通じて、自分の業務を振り返るとともに、チーム医療の理想的な在り方について深く考えるきっかけを得ることができた。今後もこのような研修に積極的に参加し、知識と視野を広げながら、患者にとって安心できる医療環境づくりに貢献していきたいと強く感じている。

■ 学生

あらためて多職種が連携することがどれだけ重要なのかを学ぶことができた。多職種が連携することで多様な取り組み・治療方針・サポート・ケアを実現することができる可能性があることを今回の CS 演習で実感した。しかし多職種で連携することはまだまだ課題が多くあり、連携するために重要である情報を共有する点についても改善していかなければいけないことが多く残っているように感じた。

■ 医師

本演習を通じ、医師はしばしば腫瘍縮小や PS 改善といった医学的成果に意識を集中しがちであるが、それだけでは患者の望む生活を実現することはできないことを痛感した。薬剤師は服薬支援、看護師は意思確認や心理的支援、理学療法士は身体機能の維持、MSW は生活基盤の確保といった形で、それぞれが固有の役割を担い、皆が積極性をもって取り組むことで治療に臨めることの重要性を痛感した。また、自身が提示者として議論をリードする立場であったからこそ、自らの説明不足や視野の偏りを痛感する機会ともなった。特に、要介護度や家族背景といった非医学的要素を十分に提示できていなかったため、他職種からの質問に答えながら初めてその重要性に気づく場面が多かった。今後は症例提示や日常診療においても、医学的所見のみならず、生活背景や患者の価値観を含めて総合的に把握する姿勢を意識したい。

■ 医師

日常の診療においては、一人の患者に対してこれほど多くの専門職が集まり、時間をかけて協議する機会は通常ない。今回の症例においても実際には多職種カンファレンスという形での協議は行えておらず、多職種から様々な意見が出る中で、自身の診療の限界と発展の可能性を意識する体験となった。

■ 薬剤師

意思決定支援というと「何をしたいか」に焦点が当たりがちであるが、ある参加者からの「何をしたくないか」という視点も重要であるとの意見は、非常に印象的であった。そうした問いかけができる柔軟さを持つことも、医療者として必要な姿勢だと感じた。

■ 心理師

私は心理士として働いており、診断期の患者に関わることは難しいと感じることが多かったが、この演習に参加し、心理士が患者とやり取りする中で患者本人が意識していなかった思いにスポットを当て、より患者自身が治療に協力的になれるような支援が出来る可能性があること、またチームに分かりやすい形で翻訳して伝えるという役割もあるということを再認識できた。

■ 医師

MSW の役割が非常に重要なことを再認識しました。

今回の演習を通じて、医師として医学的に正しいかどうかだけではなく、患者にとって実行可能で望ましいか、またそれが本人・家族が受け入れられるかという視点を持つことの重要性を改めて学んだ。特に在宅療養や意思決定が困難な患者では多職種の間とによって見える情報が格段に増えると感じた。自分の専門領域にとどまらず、他職種の知見を取り入れながらチームで患者を支える医療の在り方を今後も意識していきたい。

■ 治験コーディネーター

治験コーディネーター(CRC)は治験の同意説明に始まり、治験来院・治療を通し長期間被験者と接している為、被験者だけでなく家族の思いや考えも含め他職種より多くの情報を得る場合があると、今回の演習に参加して感じた。参加者皆さんの考えの根底にあるのは「患者(家族含む)にとって最善の医療を行う」こと。CRC が多職種症例会への参加の機会があれば、多くの情報提供を行うことが出来、患者への対策を考えるメンバーになり得るのではないかと感じた。

■ 理学療法士

今回の演習で学んだことは大きく4つある。①多職種の視点・役割の理解 ②チーム医療と連携の重要性 ③専門性発揮の重要性と他の職種への尊重 ④カンファレンスの難しさ。これらを多職種が十分に理解し機能していなければ「意思決定」を導き出すことがとても難しいという点が理解できた。また現在所属施設のカンファレンスの問題点として、事前の準備不足、問題点の不明確さ、主治医の不参加が考えられる。今回の研修内容を十分に意識して、明日の臨床に臨んでいきたい。

■ 医師

医者になってからは“医者”の常識を早く、手早く手に入れるという業務に邁進してきたように思います。そのため多職種の話を聞くということをこれほど考えた機会もなかったし、多職種とこれほど集まる機会も医者になってからあまり経験したことはありませんでした。普段会えないような多職種とこのようにある程度長時間で議論、討論できるよい機会をいただきまして誠にありがとうございました。今後もこの機会を生かしてより良い医療を提供できるように進めていきたいと考えています。

<実施風景>

